

## ふたつの図書館の開館準備にたずさわって

三 浦 育 子（前総合閲覧課長）

中央図書館と戸山図書館の開館から10余年が経過しましたが、私は両方の図書館開設に、あいついで関わりました。開館準備の思い出のうち忘れがたいことを、いくつか書かせていただきます。

### 「閲覧椅子」

中央図書館の閲覧椅子を決めるために、いくつかの展示場を回り、座り心地などを比べました。丈夫で見た目も美しいものを選びましたが、その結果、現在に至るまで布地の張替えはしても、ほとんど壊れていません。戸山図書館では、何よりも椅子を良いものにしたいというコンセプトでキャスター付きのものに決めました。動かしてすぐ壊れてしまうのではという危惧もありましたが、杞憂でした。他の家具も良いものを設置することができ、結果として利用者にも大事に使っていただき、本当に良かったと思っています。

### 「カード目録」

1991年の開館当時は、カード目録ケースが大きなスペースを占めていました。ただし、すでにWINEが稼働し、目録データの遡及入力が進んでいましたので、カードケースには予算をかけないでいました。その後、コンピュータがカード目録にとって替わる日は予想よりずっと早く訪れました。中央図書館では1997年の情報検索端末コーナー設置にともない、洋書のカード目録ケースを撤去しました。今後は、各図書館でもその姿を消す運命にあるでしょう。

カードに書かれた文字を見ると、誰が作成したかたいてい分かりました。自分でもちょっとしたミスに気づくとあわてましたから。なくなればホッとする気持ちもありますが、手書きカードからは図書館員の本に対する想いを感じられました。そんな目録を残しておいて欲しいという思いも個人的にはあります。

### 「洗面所」

図書館の設備・機能については、数次にわたってワーキング・グループを組織して報告書を作り、要望をまとめました。WGの報告書にはとりあげられていませんが、旧図書館(2号館)の洗面所は余りきれいとは言えず、新館では何とか、ゆったりしたきれいなものにしたいと思っていました。当時、駅やデパートなどでは、清

潔なトイレづくりに目を向けだしていましたので、都内のデパートなどに調査に行きました。そして、当初の計画段階より広さは改善され、また「洋式トイレ」の数も増設されることになりました。一方、戸山図書館では女子学生が多いこともあって、全身の映せる鏡の設置など学内でも一歩先をいくものになりました。しかし、男女の設備ともデザイン優先で利用者からの苦情が相次ぎ、設計事務所に掛け合ってやっと改善してもらいました。また、スペースの関係で、館員用の洗面所が少なくなったり、戸山図書館では設けられなかったことは、今でも残念です。

### 「桜の木」

今年も、もう少ししますとグラント坂側の閲覧席からは、咲き誇る桜の花が見られます。私は、窓一面をおおう桜の花を見るたびに幸せな気持ちになりました。新図書館が建つ前の安部球場には、グラントを囲むように桜の木がありました。整地の際に、グラント坂側の桜は、根がはって新図書館の土台に影響しそうなので、そのほとんどを切る予定だと総合企画部の方に聞かれた時、“毎年きれいな花を咲かせる桜を切らないで欲しい”と個人的にも伝えました。他の人たちからも、たくさん要望があったのでしょうか。何とか切らないで残せそうだと聞いた時には、本当に嬉しく思いました。春には、皆さまも本を読む眼を休めて、心ゆくまで桜を愛でてください。

(2004年11月 退職)



新図書館の建築現場（旧安部球場3塁側スタンド、手前はグラント坂 1989年4月8日撮影）